

## 情報の収集・連絡

Q

災害時はどんな情報が必要となるのか

A

まずは地域の被害状況に関する情報が必要です。

要点

大地震発生直後に受け取る情報には、ラジオ・テレビ等による広域の被災情報と、区から防災無線等で発信する地域の被災情報があります。

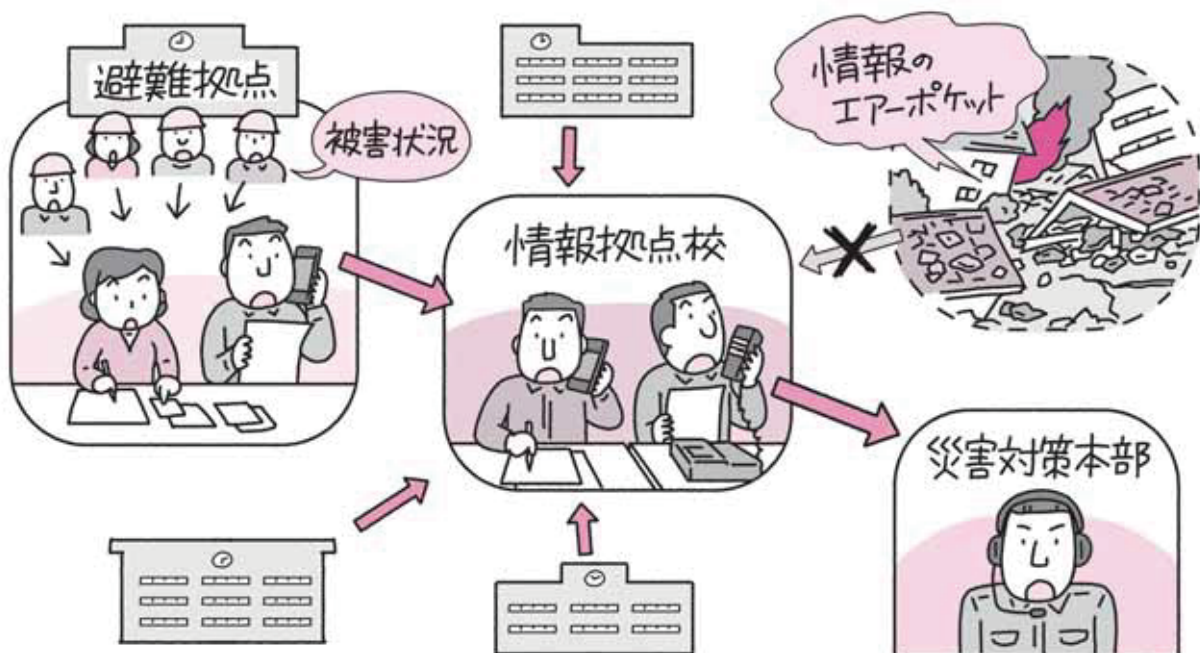
一方、被害が激しい地域の情報が外部に一番伝わらないという「情報のエアポケット」状態が生じることが知られています。これを防ぐために、集合した避難拠点運営連絡会のメンバーや避難者からの情報を、情報拠点校を経由して、災害対策本部に伝えることが大切です。

## ＜解説＞

「情報のエアポケット」状態が生ずることで、激しい被害が生じ、最も支援が必要な地域に、支援が届かない状態がおきてしまう心配があります。練馬区の災害対策本部では、各避難拠点や情報拠点校からの要員の参集情報や地域の被災情報などを基に、必要な支援の体制を組みます。正確な情報を迅速に災害対策本部に伝えることが重要です。

また、災害時に各拠点が一齐に無線を発信すると輻輳（ふくそう）が起これ、必要な連絡が入りづらくなります。

通信を行う際は、なるべく簡潔に伝達し、通信回線にゆとりをもたせることを意識してください。



Q

情報の収集に使うものはなにか

A

地域の被害情報は目で見て集めます。

区からの情報などは、防災無線放送塔や戸別受信機、区のホームページ、ねりま情報メール、テレビ、ラジオなどで集めます。

要点

災害が発生した直後は、避難拠点要員、避難拠点運営連絡会や避難者の方々などが、避難拠点到に集合する際に、目で見て集めた地域の情報が、特に大切です。



### <解説>

広域の情報を収集するのは、テレビ・ラジオによります。そのほかに、防災無線放送塔や避難拠点にある防災無線の戸別受信機、区のホームページ、ねりま情報メールなどにより、区からの情報を受信できます。避難拠点と災害対策本部との間の通信は、移動系防災無線（音声・FAX）を使います。有線の電話が使えるときは、電話・FAXを使用します。



Q

集められた情報はどこに連絡するのか

A

地域の情報は、情報拠点校を経由して、災害対策本部に伝達します。

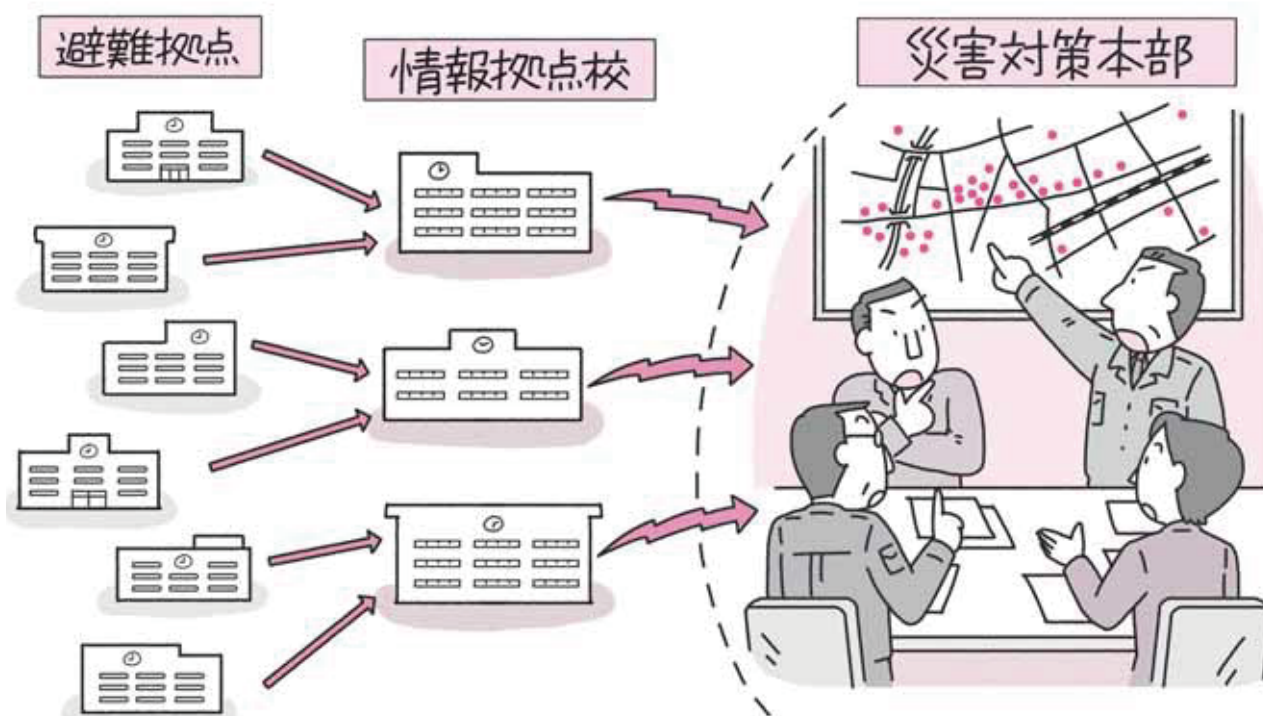
要点

災害対策本部では、現場の状況に合わせた的確な判断を行うために、各地域からの正確な情報を必要としています。区役所7階防災センターに設けられる災害対策本部では、高所カメラや各防災機関の派遣員等からの情報とあわせて、情報拠点校ごとにまとめられた地域の情報を基に、対策を決定します。ただし、一斉に災害対策本部に無線連絡をすると回線がふさがってしまい、全くつながらない状況を引き起こしてしまいます。そのため、情報拠点校で集約して災害対策本部に伝達する流れになっています。

### <解説>

各避難拠点の災害対策会議では、被害状況等が一目で分かるように、大きなパネルなどで記録すると見やすくなります。また、地図をはりだし、被害か所を書き込むなど、状況が一覧できるようにします。

災害発生直後の緊急な対応を必要とする時期には、一刻も速く被害の状況を知らせる必要があります。まず、概略を通知して、その後に順次整理した情報を知らせるような工夫が必要です。





Q

避難者に“正確に”情報を伝えるためにはどうするのか

A

必要な情報を、わかりやすく整理して、避難者に知らせます。



要点

避難者へのお知らせ等は、掲示板やビラを使い、正しく伝えるようにします。

緊急に知らせる必要のある情報は、校内放送を使います。放送は聞きのがしが生じますので、その後に掲示板・ビラも使います。

いずれの場合にも、情報を受け取り損なう人がでないように配慮します。

そのほか、個人や団体からの問い合わせなどへの対応を、考慮する必要があります。

#### <避難者へ知らせる情報>

- ア 区の対策：被害状況、医療、物資配給、給水、道路状況 他
- イ 防災機関の対策：消火活動、救助活動、交通規制、医療活動、道路状況、ライフライン復旧状況 他

#### ◆災害用伝言ダイヤル「171」

被災地に住む親類、友人の安否をどうやって確認したらいいのか……。

大地震の際にはNTTが、災害用伝言ダイヤルを開設します。録音時のダイヤルは「171-1-(被災地市外局番)-(電話番号)」です。録音を再生する場合は、「171-2-(以下同じ)」となります。家族・友人の安否が確認できれば、ひと安心。

携帯各社も、災害用伝言板を開設しますのであらかじめ確認しておきましょう。